

LCR 直列回路と共振周波数

LCR 直列回路を流れる電流 I を $I = I_{\max} \sin \omega t$ とし、

このとき、交流電源の起電力 V が $V = V_{\max} \sin(\omega t + \varphi)$ であるとする。

ここで V_{\max} を一定に保ち、角振動数 ω だけを変えていくと、

ある角振動数 ω_0 において回路のインピーダンス、つまり交流回路の抵抗が最小となり、その結果、最大の電流が回路を流れることになる。

この現象を直列共振、また、角振動数 ω_0 を与える周波数を共振周波数という。

(共振周波数を f_0 とすると、 $\omega_0 = 2\pi f_0$)

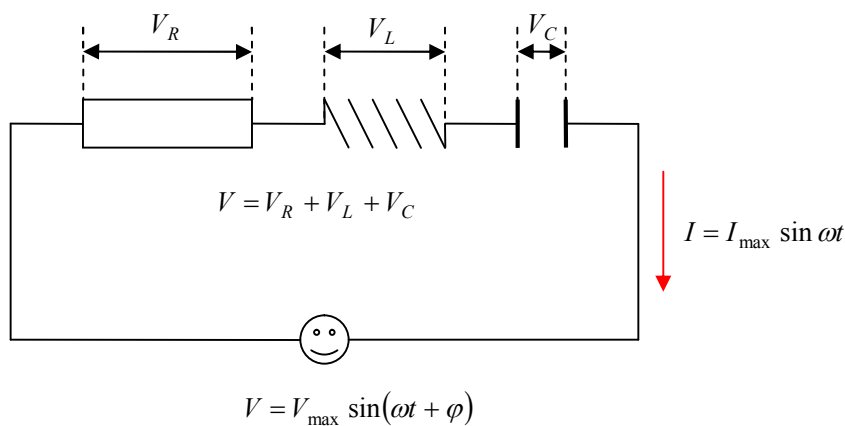
共振周波数を求める

コイルの電圧を V_L 、コンデンサーの電圧を V_C 、オーム抵抗の電圧を V_R 、

電流を $I = I_{\max} \sin \omega t$ 、交流電源の起電力を $V = V_{\max} \sin(\omega t + \varphi)$ (V_{\max} は一定) とする。

キルヒホッフの第二法則より、

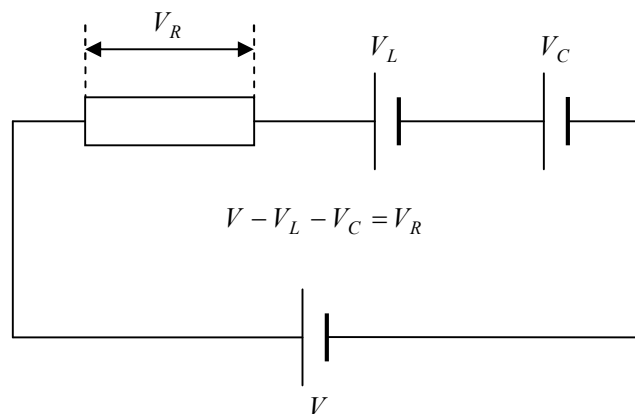
$$\begin{aligned} V_{\max} \sin(\omega t + \varphi) &= V_R + V_L + V_C \\ &= RI_{\max} \sin \omega t + \omega LI_{\max} \sin\left(\omega t + \frac{\pi}{2}\right) + \frac{I_{\max}}{\omega C} \sin\left(\omega t - \frac{\pi}{2}\right) \\ &= I_{\max} \left\{ R \sin \omega t + \left(\omega L - \frac{1}{\omega C} \right) \cos \omega t \right\} \\ &= I_{\max} \sqrt{R^2 + \left(\omega L - \frac{1}{\omega C} \right)^2} \sin(\omega t + \varphi) \end{aligned}$$



補足図

コイルとコンデンサーをそれぞれ起電力 V_L と V_C の電池に例えると、
電源の起電力の向きと逆向きだから、

キルヒホッフの第二法則より、 $V - V_L - V_C = V_R \quad \therefore V = V_R + V_L + V_C$



よって、

$$V_{\max} = I_{\max} \sqrt{R^2 + \left(\omega L - \frac{1}{\omega C}\right)^2}$$

$$\cos \varphi = \frac{R}{\sqrt{R^2 + \left(\omega L - \frac{1}{\omega C}\right)^2}}$$

$$\sin \varphi = \frac{\omega L - \frac{1}{\omega C}}{\sqrt{R^2 + \left(\omega L - \frac{1}{\omega C}\right)^2}} \omega$$

また、 $\sqrt{R^2 + \left(\omega L - \frac{1}{\omega C}\right)^2}$ は回路の抵抗にあたり、これをインピーダンスという。

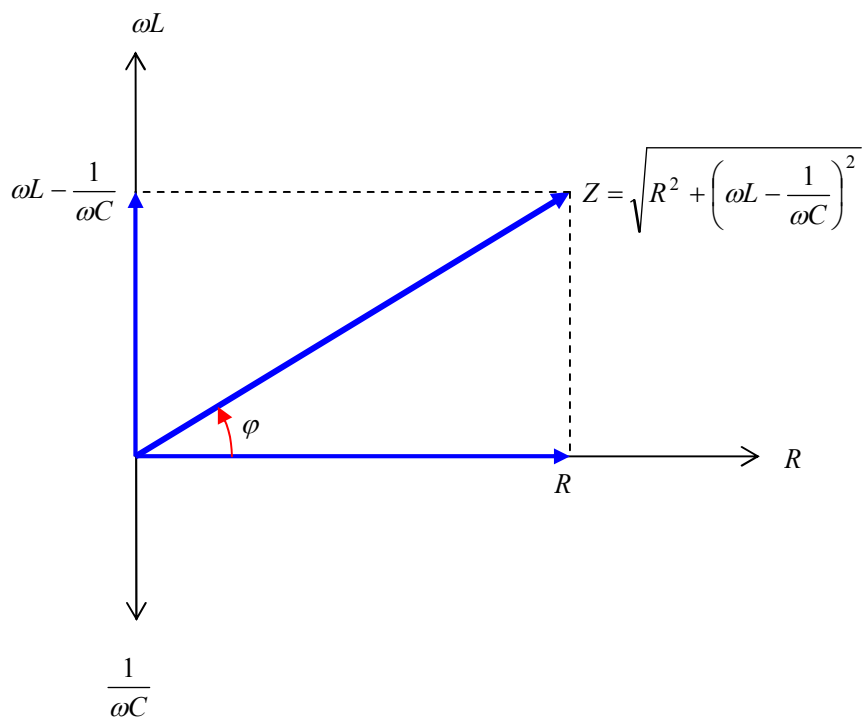
インピーダンスは記号 Z を使って表すので、 $Z = \sqrt{R^2 + \left(\omega L - \frac{1}{\omega C}\right)^2}$ となる。

ここで、

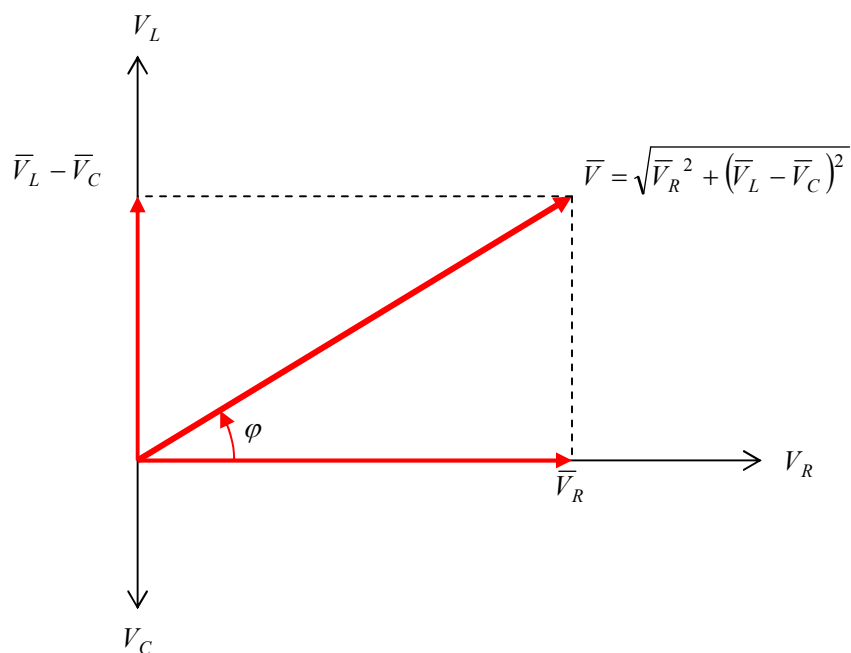
V_R の位相を横軸にとると、 V_L の位相は V_R より $\frac{\pi}{2}$ 進み、 V_C の位相は $\frac{\pi}{2}$ 遅れるから、

インピーダンス Z 、オーム抵抗 R 、誘導リアクタンス ωL 、容量リアクタンス $\frac{1}{\omega C}$ の

関係は次のように図示することができる。



また，起電力と電圧の実効値を \bar{V} ， \bar{V}_L ， \bar{V}_C ， \bar{V}_R とすると，下図のようになる。



ここで V_{\max} は一定という条件の下、 I_{\max} が最大値をとるのは、

$$V_{\max} = I_{\max} \sqrt{R^2 + \left(\omega L - \frac{1}{\omega C}\right)^2} \text{ より,}$$

$\sqrt{R^2 + \left(\omega L - \frac{1}{\omega C}\right)^2}$ が最小値をとるとき、すなわち $\omega L - \frac{1}{\omega C} = 0$ になるときである。

このときの角振動数を ω_0 とすると、 $\omega_0 L - \frac{1}{\omega_0 C} = 0$ より、 $\omega_0 = \frac{1}{\sqrt{LC}}$

よって、共振周波数を f_0 とすると、 $f_0 = \frac{2\pi}{\sqrt{LC}}$